

2024年2月の行事予定表

1	木	祈祷会 (月報印刷と発送作業)	16	金	
2	金		17	土	
3	土		18	日	野村師 (呉教会)
4	日	永松師・聖餐式 役員会	19	月	
5	月		20	火	
6	火		21	水	
7	水		22	木	祈祷会
8	木	祈祷会	23	金	祝日
9	金		24	土	
10	土		25	日	☆臨時教会総会
11	日		26	月	
12	月	平和集会 (日本基督教団・岡山教会にて午後 1:30~3:30)	27	火	
13	火		28	水	
14	水		29	木	祈祷会 (月報印刷と発送作業)
15	木	祈祷会			

# 教会月報

2024年2月  
No.393

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

## 最初のしるし

三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに「ぶどう酒がなくなりました」と言った。イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」～略～イエスが「水がめに水をいっぱい入れなさい。」と言われると、召使いたちは、かめの縁まで水を満たした。～略～世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。～略～世話役は花婿を呼んで言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったところに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現わされた。それで、弟子たちはイエスを信じた。  
ヨハネ福音書 2章1～11節

水がぶどう酒に変わる奇跡を、聖書はしるしと呼んでいます。その奇しい御業が何かを指し示すしるしとして扱われているのです。

今、婚礼の席で切らしてしまったお酒を何とかしようとして母マリヤがイエスさまに声をかけます。私の時はまだとおっしゃるイエスさまを横に、召使いにこの人の言う通りにと母は告げます。主は清めに用いる水がめいっばいに水を入れるようおっしゃいます。召使いはその通りにし、それをくんで宴会の世話役のところを持っていきます。世話役は味見をし、花婿を呼んでこう言います。「こんな良いぶどう酒を今まで取っておかれたのですか」と。

手足を洗う水を入れる水がめは今、婚礼の席を祝うぶどう酒を満たすかめとなりました。律法を守るしるしから今、十字架のイエスさまの血潮のしるしへと変えられたぶどう酒は式に祝福をもたらしました。私たちの祝福、救いのしるしがここに示されたのです。

～三浦 功牧師(広島教会)：岡山教会1月21日礼拝説教要旨～

\*\*\*\*\*  
三浦先生は講壇へ上がられる時、スリッパを脱がれます。主の将軍がヨシアに言われた「あなたの履物を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。(ヨシア記5:15) に倣っておられるお姿に教えられました。  
\*\*\*\*\*



## 編集後記

- ◇ 2024年は元旦午後の能登半島地震で始まってしまいました。編集子の住まいもはっきり揺れを感じました。
- ◇ 月報の中面で、元旦礼拝の写真と新年礼拝(7日)の写真のあいだに地震があったこととなります。取り急ぎ、当教会でも募金を送金しました。一日も早い復旧・復興を心から願います。
- ◇ 福音書でイエス様が語る「家」「土台」「洪水」のたとえ話から、真剣なメッセージが響いてきます。
- ◇ 土居直美姉の証しを読んで、たしかに神様は生きて働かれるお方だと、魂が熱くなりました。かけがえの無いきょう一日を、神の御手という土台に支えられて生きたいと願います。

岡山ナザレン教会ホームページ <http://nazaren.a.la9.jp>



元旦礼拝

## 2024 新しい年がスタート!!

◇1月1日(月)11時より元旦礼拝が行なわれました。永松師の司会・説教、K.N.さんのパイプオルガンによって、一年の初めに主なる神様を礼拝する恵みに与りました。永松師は、コリント第二の手紙4章7～15より「希望の源泉」と題して語られ、「神が土の器に入れてくださったものを誰も奪うことは出来ない」との結びにアーメンと応答しました。いつもの礼拝メンバー・兄弟のご家族も一緒に21名の出席でした。

◇1月7日(日)は、新年第一回の主日礼拝でした。久しぶりの兄弟など21名の出席。ローマ書15:1～6より「喜びをもたらす人」と題して永松師よりメッセージをいただき、聖餐式にも与りました。『自分だけでなく、隣人に喜びや希望を与え、共に喜ぶ人生は幸いです。イエス様もご自分を喜ばせようとはなさいませんでした。』と語られ、私たちも心を合わせ声をそろえて、主イエス・キリストの父なる神を崇めたいとの思いを深めました。



新年礼拝



元旦礼拝後の永松師ご一家



教会外看板が新しくなりました。前面ガラス扉を開閉して掲示物を入れ替えることができます。



1階集会室(CS室)に卓球台が再登場しました。ネットも新調され、コロナ禍で控えていた元気な声が復活しています。  
～この日は、J君(高1)とEさん(中1)の対戦～

教会学校(CS)が再開され、この部屋が子どもたちの笑顔でいっぱいになりますようにと祈ります。

## 証し寄稿



「主のみ手の中で」 N. D. 姉

昨年の引越し前後に右胸の奥に鋭い痛みを感じるようになりました。痛みが強くなるのでひと段落ついでから地元の複十字病院を受診しました。すると心臓の横に小さな影があり、ペットを含むいくつかの追加検査をして次の診察を待ちました。直ぐ後の日曜礼拝のメッセージが「この戦いは主の戦い」(Iサムエル 17:47)という内容で、これは覚悟するよにということだな。でも、主の戦いと言ってくれたのだから、安心してお任せしようと思いました。次の診察時に「肺に腫瘍がありもし癌であればステージ3(ほかの細胞への浸潤がある)」と言われました。「本来なら細胞を取って病理検査をするのだが、心臓のすぐそばなので針をさせない。確定診断はできないが、外科と放射線科とも相談して画像から判断し、病巣のある右の肺の1/3を切除しその後放射線治療を行うことになるだろう。」という話でした。更に脳のMRIも必要でG.W明けの検査と呼吸器外科の受診の予約を入れ、しばらく間をあけることになりました。

今通っている教会は讚美が多く、この待つ間の毎週の讚美が朝起きても台所に立っても自分の回りを包むように広がり不思議な平安を経験しました。そんな中、主人と通読している聖書がゼパニア書に入り、3章15節で「主はあなたへの宣告を取り除き、あなたの敵を追い払われた。」(新改訳)に出会いました。ハッとしながらも、その時の私はこんな都合のいい言葉があるかしら?と躊躇してしまいました。ただこのみ言葉を心の中にしまっておきました。

G.W明け、呼吸器外科の診察を、いよいよ手術日が決まるという覚悟で受診しました。問診で痛みがなくなってきていることを伝えると「ちょうど間隔が空いたのでもう一度映像をとってみましょう」と先生に言われました。その結果「病巣が小さくなっているのです、癌ではありませんね」と言われたのです! 何と、神様はみ言葉の通りに、私への宣言を取り除いたのです。余命も意識したひと月でしたが、与えられた日々は小さき主の声を聴きとれる者でありたいと思います。

